

## 令和7年度 学校関係者評価結果

### 1. 学校関係者評価委員会の開催

日時：令和8年3月24日（火）14:00～15:00

### 2. 学校関係者評価委員

- 1) 教育に関する有識者：県内大学の特任教授
- 2) 高等学校関係者：入学生出身校の校長
- 3) 看護管理者：国立病院機構 看護部長
- 4) 卒業生：国立病院機構 看護師長 同窓会長

### 3. 評価内容：令和7年度 学校運営目標に対する実施状況

### 4. 評価資料

- 1) 令和7年度 自己点検自己評価
- 2) 令和7年度 学校運営目標に対する実施・評価
- 3) 学生によるカリキュラム評価
  - (1)卒業時、2年次、1年次カリキュラム評価
  - (2)学生による科目評価一覧
  - (3)保護者との連絡調整

### 5. 学校関係者評価委員による主な意見、課題（抜粋）

- 1) 運営目標ごとの意見交換、課題
- 2) 令和7年度の全体評価

### 1. 教育の質の向上を図る

#### 【カリキュラム全般に関すること】

- ・全学年のカリキュラムを軌道に乗せるため、学生便覧やシラバスを活用した説明、3校合同カリキュラム運用の綿密な連携、評価基準の学生への説明等、適切に教育の質を向上させるシステムを継続できている。
- ・各実習施設の実習指導者と連携し、実習指導方法について、評価・検討できるように、意見交換を繰り返す中で学生が臨床現場で起こり得ることを意識でき、その内容をイメージすることで、実習が意義あるものとなった。
- ・看護師国家試験合格率100%を目指すために、チューター制の活用、カリキュラム調整者をリーダーとして学習に取り組む等の改善、学習支援が充実している。
- ・3校または、2校合同カリキュラムについて、学生の学習意欲が向上するよう、丁寧に情報を共有しながら調整していることがよくわかる。
- ・個に応じた就職活動・進路選択を支援するために、引き続き呉医療センターに就職し、地域医療の中心となることを期待する。自己評価、第三者評価による学校関係者評価を実施し教育内容の充実を図るため、今後も学生アンケート結果を学生支援に生かしてほしい。
- ・3年間の養成学校であるため時間的な余裕を持つことが難しいと思うが、学生が1年生のうちに基礎学力を身に付け、人間性、自律性を育み、自らの意見を発表し文章化する能力を養っていく対策として、入学前学習としてドリル、「臨床推論」の新しい講義に取り組むことなど考慮してほしい。

<p><b>【学校から意見】</b> ⇒事前学習の提示や「臨床推論」は3年次に診療看護師（JNP）に依頼し講義・演習や「総合看護技術演習」で技術試験も取り入れ臨床判断能力を高めるためのカリキュラムの運用をしている。</p>
<p><b>2. 学校経営基盤の安定を図る</b></p> <p><b>【学生確保に関する対策について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動により応募者の確保に努めるため、学校HP、SNS、ガイダンス、高校訪問、オープンスクール、がん講演会での看護説明ブース等、様々な機会をとらえて、精力的に活動された。志願者増加の成果もあった。特別推薦（指定校）及びそれ以外の希望する高等学校の進路担当教諭を対象とした学校説明会では、発表会や卒業高校の教諭との交流会を設ける等、学校の内容を適切に知れる大変有意義な会であり高く評価できる。今後も、多くの高校にも可能であれば参加をよびかけてもらいたい。</li> <li>・学生確保に向けて、広島県内の学校訪問、オープンスクールの開催、学校HPの活用や入試日程の見直し等、様々な活動をしている。今後も評価をしながら母体病院とも連携し、効果的な学生確保に向けた広報活動を継続してほしい。最近ではSNS等の広報をよく目にする。</li> </ul> <p><b>【経費節減について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経費の節減について、光熱費の節約等、教員・学生共に取り組まれている。</li> </ul>
<p><b>3. 学生が社会人としての自覚を高め、主体性及び協調性を養うよう支援する</b></p> <p><b>【教員の対応について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員がロールモデルとなり、日常の挨拶を励行するために朝のミーティングや教員会議を有効に使っている。学生自治会活動、ボランティア活動など、大変精力的にがんばっていた。</li> <li>・学生の自治会活動を適切に支援され、学生が考え実践し、成功体験をすることで、主体性や協調性の大切さを学ぶことが出来ている。学生に寄り添い、個々に合わせた指導・支援ができていいるからこそその成果である。</li> <li>・医療チームから学ぶことが卒業後に社会人として主体性や協調性を育むのに役立つため、医療の現場で定着したチームの中に実習として参加し、多職種のスタッフとのコミュニケーション能力や患者からの傾聴する能力を身につけることが必要である。</li> </ul> <p><b>【学校から意見】</b> ⇒多職種連携については、主に臨地実習で多職種と連携調整する場面やカンファレンスに参加し学ぶ機会が多くある。病院においても地域連携室での実習、統合でのリーダー実習、複数受け持ち実習、そして、今年度より、地域・在宅看護論実習では諸島部での開業医（かかりつけ医）プライマリケアにおける多職種連携も学んでいる。</p>
<p><b>4. 教員としての能力開発に努める</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員としての能力開発に努めるため、校内研究授業や新人教育研修等計画的に進め、職員全体への情報交換・共有があり、校内に自己研鑽の土壌があることが伺える。情報共有することが多くなり、会議の時間短縮は難しいとは思いますが資料の会議前の配付等、工夫をすると良い。</li> </ul>
<p><b>5. 学習・生活環境の充実に努める</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生・職員の健康管理、感染予防及び拡大の防止を継続するために、学内の規定を基に、個々の実態に応じて、適切に健康管理をしておられます。身体と心の健康管理お願いしたい。</li> <li>・先生方と話をする機会があるが、学習場面だけではなく、普段の日常生活の場面でも手厚く支援していることが伺える。親元を離れて暮らす学生もおり、安心して学べる環境が今後も継続されることを期待する。</li> <li>・学生への図書アンケートも実施され、学生の希望も取り入れられ計画的に購入がされている。また、インターネット環境の整備教材器具に関しても適正に整備されている。</li> </ul>

## 2) 令和7年度看護学校の全体評価

- (1) 令和6年度の課題である学生確保対策の強化は実施しており、学生確保につながった
- (2) 令和6年度検討事項であったWi-Fiを全面設置

以上のことから、全体評価が昨年度より高くなっており、課題に前向きに取り組んでおり今後も継続していく。